

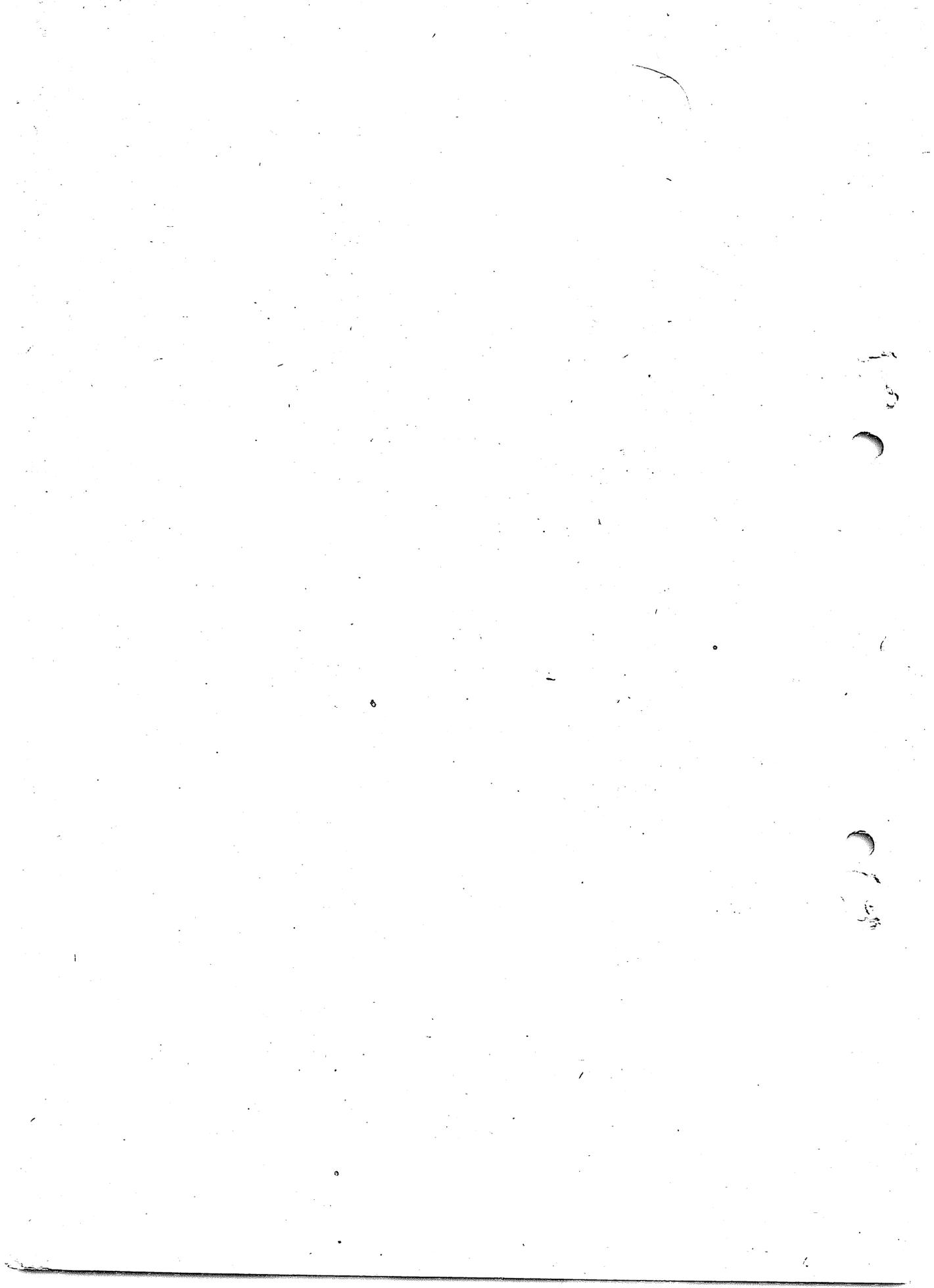
信州大学山岳会

伊那松本山岳部

1971

個人山行報告

編集：記録係
発行：伊那印刷所



岩倉山行記録

MEMBER

L. 三坂, 印井, 三井

記録

2月21日

9:32 松本駅発 ①

↑
10:00 豊科駅発 ①

↓
10:20 北海道発 ①

11:00 タムサイト ①

12:08 橋

13:20 作業小屋 ①

14:20 ミツ俣

15:15 T.S. 夏道を下からピッチ4登ったあたりの平坦地。
積雪 数+cm

よく晴れた一日だった。陽ざしは春を思わせるほどだが凍っていた路はやはり冬のそよ風。

誰のトレースも無い雪はうれしい。自分達だけの山……。

ミツ俣から木かきをつける。

2月22日

6:20 発

6:50

8:30

9:40

11:10

12:10 縄根に到着

13:05 T.S.

① 森林限界のすぐ下 大きな雪底(おろり)の上にアタックキャンプを設営。

雨を含んだ非常に重い雪。そのうえステップがすぐくずれピッチが浅まる。3ピッチ目がトップは空身でステップを刻みいったんいきがして荷を背負い後に続くという方法をとる。

我々のとったルートはほぼ夏道に近いようで。指標もみかける。この冬の大雪は音部も赤積も見かける。

2月23日 起床 天気悪く待機

5:30

8:20 サバザブにア出発

8:55 ① → ② 風強し

9:10 ② 引き返す。

(前岩倉への登り)はくさい所)

状態がよければAttackのつもりで偵察に出かけたが風強くおろれ、ガスのため引き返す。T.S.のすぐ上の森林限界付近もよいキャンプ場になることがわかった。雨もり敷い。

2月24日

6:55 発 ガス

7:50 ○ 2200m以下雲海

8:50 岩倉頂上 ○

9:30 前岩倉 ○

10:20 A.C. 着 ○ーガス

テント撤収し

11:30 下山はいよいよ。

12:20

⊗
朝起きたころはガスで何も見えるからが、上の空が明かかいので出発してみよと有人とすぐ上げ快晴、下の方だけ雲海の中なのである。前常念から矢張り想外に雪底は全くみられず快調に歩いてピークに立つ。總高が目の前に立ちふさがり。

撤収後は苦しい。表面が少しぬかるか、なごともくろくもくろいかの接点。急斜面 樺材林帯のせいで転倒するおとしきり。期待したシリヤードもほとんどため。道へ出てからとちゅうでジープにひきおれて北進渡。豊科→松本へ。

★感想

◇2月の山というのは雨に降られ参った参ったという感じである。雪はビチャビチャでズボズボするし、テントは雨もりして水でぬれるしてサンゲンであった。登りはきついであまりおもしろい山行ではなかった。しかしアタックの日ばかりと暗れ持がよかった。しかし下りて考えてみるといろいろ考えさせられて、勉強になった山行であった。(E3井記)

◇松本に待みついで2年。朝夕、春夏秋冬ながめて暮らしてきたその常念岳であるが、松本側からはどうもてかくて登る気にならな。まして夏になるとこちらから登ることもとは思ってもみるにことだ。しかしながた。冬のあの夕べ、さういふ色に暮れゆくとしているその姿を見てようやくその決心がわいた。冬の常念は、人のいる常念に正面から登ってやろうと。

結果は？……予期しない冬の雨。つらかったけれどそのかいあって快晴のうちに山頂をきわめることができた。悔いなく松本をもちろ。

春山 立山 スキー 山行 3/25 ~ 4/5

Member CL 小根田 SL 三坂 小泉 金野 高橋
中田 板東

3/25 パッキングのわずらわしさから 9:46 PM の長野行に乗って
やっと解放される。長野駅で「白山」をまつ。

3/26 「白山51号」は混んでいてたいへんだ。某天家の金野
はガラガラの指定席を見て席があるとさあいた。バカその
富山、電鉄立山、と乗り換えケーブルで美女平に着いた。

◎ 8:10 いよいよ出発。スキーをザックに着けると背骨がギョときむ感じ
40kgは軽くオーバーしていた。遠く剣、立山を望めばレンド雲
がい、ぱい。午後からが心配。ヴァーゼルのトレースを込んだ。

◎ 10:30 あまりに重いのでスキーにシールをつけてスキーをほく。いわゆる
定かせをつけた感じである。

◎ 1:55 まだ早いけど今日はここまでとなる。標高1350m
気温は今日は暖くて6~7°C 夜雨。みぞれが降った。

3/27 4:00 get up 8:00 出発 今日もうーガルのチェンソーで
スキーを削ってキスリングを背おうの位置にむつかしい。足が自由
① になるまいからだ。失敗するとたいへいころぶ。

◎ 12:45 華の六甲学院 追分小屋でメシにする。快晴になりたい(小暑)。
弥陀原HOTELでヴァーゼルのあとがなくなる。

◎ 15:30 美松荘下に天幕を張る。最後の斜面で板東がおくれる。12時 0°C

3/28 4:30 get up 7:10 出発 天狗山の斜面をトラバースして
進む。クラストを予想して初めからアイゼンをはいた。天狗荘
をすぎてアイゼンからスキーに変える。ここで毎日新聞のカメラ
マンに写真を撮何枚も撮らされた。しかし後で調べたが何にも
載ってなかった。せ、かくみんなどうしてもない顔でポーズをとったのは
自分の顔がは、きりうつっていたのだらう。

12:30 天狗荘の近くの合地を通過。3日間の重荷から
解放された時には体が浮くようであった。

3/29 スキー練習のち雪殿

10:00 から雨、あられが降りビニールシートをかけて、ブロッグをつむ。
スキー練習は B.C の南東の凹地の斜面で 2 班に分かれてやる。
金野先生は中田、板東につき小根田先生は小泉、高橋につく。三坂先生はテントで休養。先生曰く中田君は順調に上達、板東君はかの大安氏よりはよいもののまごまだの様、高橋、小泉はだいたい安心。昼からはコイコイに熱中する。小根田氏は初心者にもかかわらず全勝。小泉は相変わらず弱い。渡井園氏のさし入れのウスキーでがんばり。

3/30 スキー練習のち雪洞掘り

午前中はスキー練習で午後は雪洞を掘る。

- ◎ 雪洞は 3 時間かけて 4~5 人用を掘りあげる。全員雪まがむり。トトトになる。

3/31

8:00 からスキー練習。午後 1 時から雨が降り出す。

- ◎ また例レ... 化札に精を出す。
- ◎ A 以外に全員でビニールシートを張る。

4/1

朝から雨で沈。10 時ごろ雨が上がり日が照ってきたのでテント

- ◎ の張り変えをして シュラフ 衣類を干す。
- ◎ 2 時ごろ快晴となり、夕焼けが印象的であった。白河山の
- ◎ +6c かなたに沈む太陽をいつまでもいつまでもあきずに見ていた。

4/2

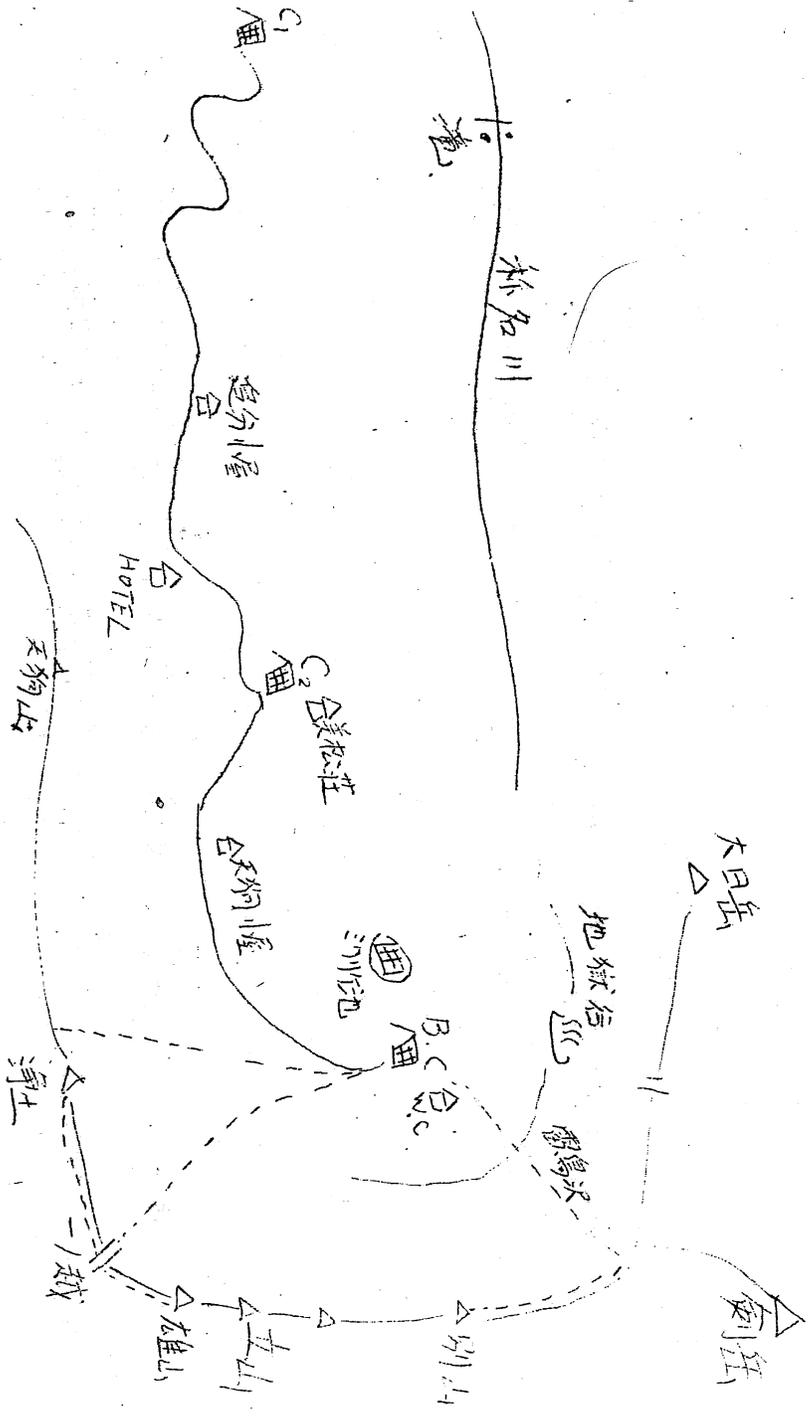
3:30 新入宿なみの記録的な時刻に起る。メシの作成に時間を
食い 5:25 に 鷺山 に向けて出発す。一ノ越小屋の下にスキーをデポ
して雄山までかけ上がる。気温 -5°C 風 10~15m/sec 下だて
すぐ浮土までピストンする。一ノ越で休息中、金野がオーバーシューズ
を風に飛ばしはるかかなたに飛ばして行った。小根田氏がシブシブ取り
に行く。小根田氏バレー越の一本が延びる。いよいよ滑り台に
なる。初めはアイスバーンなのでキックターンでゆく。杖が面白い
ほどコロコロころが。昨夜の雪が波うっていてすべりに
にくい。登りぐらゐの時間を費して B.C まで降りる。
最後の雪洞掘りが荒れた。

4/3 またしても3:30 Get up. 5:00 出発 雷鳥沢をアイゼンで
ひたすら登る。途中でスキーをデポして別山に向う。

- ① 9:35 別山のピークを踏む 剣の雄姿がすばらしい。すぐ降りる。
↓
② スキーをつけるがアイスバーンなので横すべりでゆるり下る。板東が
30mぐらい滑落して金野が止める。12:35 B.C着 2:00から
雪洞を掘る3時間かかって堀りあげる。三坂氏 板東 中田が雪
洞に泊まる。

4/4 朝は雪だったが1:00ごろやみ 1:50 快晴となったので浄土
⊗ に向う。2:30 稜線に着く。昨夜の雪でたいへんすべり
↓ やすい。全員が初めて楽しくすべった。ころぶのさえ楽しい。
○ 夕日が美しく映えて立山がすばらしい。夕日あびてスキーの
練習をする。

4/5 8:00 いよいよ下山となる。天気は快晴で気持ちいい。白い白い
奥大日を見ながらスキーを走らす。天狗に9:00に着く同志社
がやらかしたことが信じられないほど快脚コースである。
樹林帯に入るとすべりなくなりゼイゼイしながらコケ
に20 美女平に着く。終わった。ケーブルがう見るとふきのとう
が顔を出していた。入山は白い白い世界だったのに下山は黒い
土も見えて春を感じる。春山はゆかみで終わった。
富山に出て 9:45 P.M.に松本に着いた。



(今更いで、空白がやきてしまひました。何人小行報告の感想なども
各自記してみても下なり。)

伯耆大山 北麓 (元谷小舎とベースとして)

2. 渡部 村上 3.22~27

冬山以上に、シゴカした春山のちと、帰省したけ木ど、毎日新にいる
手はな。本来の香山の海...めくまめく光の世界ア。おもしろいさりの人びりとす
ゴとらと、狩野は京都の村上と庄島の小生とで、大山元谷に惹かぬ
日間の元谷小舎生きた。氷雪に輝く北壁を前にして、じっとしてい
るには、我々は若すぎるし、ガイル、そしてアイスリーディングア、持参
はしたが、氣負って、ひたすら攀じるとりはなれた。

3月26日 元谷小山舎 14:20 ①月理し → 大山寺 14:50 ②③ → *

3月27日 5時 島取着 渡部 稿

五月の 高瀬 瀬部 入り 中田 小泉 4/30 ~ 5/6

4月30日 野笹エリ 寝 日山平4だ編る

4月 長は日たいた 屋 スくれし屋

5月 月全がバ通一 雪行をルく 候す替うう常ナルこら樹との

積先帯。ち湯し。よ。設もセホボる。樹さ。
 ぐ。林りも。晴界のた。スツたかれり。周序
 すと樹まとだ。素視山リト一ら。来程さあといへ
 れ。大。和。の。インレで。水手がリト
 了けるくうは。は。度月ラテト。泉足と。悩フ。ガ
 登ル。か。し。迷。高。て。30。三。張。上。小。が。は。一。ん。テ
 巨。木。助。ら。て。登。し。り。エ。所。は。ッ。右。に。口。の。ッ
 根。か。て。晴。な。に。子。で。ト。た。先。部。は。し。ゴ。fix。
 尾。で。素。あ。適。高。ぐ。白。ん。れ。ら。渡。で。用。ン。度。木。の
 候。ま。あ。か。が。候。標。、。テ。離。か。ま。着。が。イ。テ。田
 湯。り。が。標。束。で。の。れ。ま。が。て。岳。を。ン。に。中
 。た。入。独。赤。な。み。ら。頼。ッ。候。え。候。レ。セ。に。本。ら
 て。あ。イ。の。の。巨。得。等。勝。言。湯。茅。湯。せ。イ。リ。候。が
 。下。ル。鎌。大。類。2。3。か。部。は。巨。巨。イ。ア。た。み。な
 負。せ。ト。北。国。が。は。望。至。に。札。後。と。う。ア。あ。ッ。み
 背。ム。の。子。赤。月。ノ。展。口。ク。あ。の。こ。向。は。ど。界。マ。し
 巨。イ。み。横。の。一。の。野。一。の。と。の。に。上。水。限。イ。柴
 日。係。り。テ。て。巨。月。七。程。ピ。ル。日。ホ。ら。け。の。ハ。巨
 ノ。装。あ。一。し。ト。五。の。年。セ。る。明。デ。か。い。帯。の。望
 月。全。が。バ。通。一。糸。が。羽。だ。ッ。す。く。と。こ。る。林。ニ。展
 5。雪。行。を。ル。く。候。す。替。う。う。常。ナル。こ。ら。樹。との

後立山. 4/30 ~ 5/4 △小根田. (三井、三井)

4月30日

9:00松本 → 11:05神城 → 遠見小屋(2:00) → 小遠見山 3:50
(雪洞をほり、そこに寝る)

5月1日

T.S 6:30 → 途中猛烈な地震起きアツェルトを飛ばして特を
すびす。 → 11:00 釜線の下。Lの雪るか否か1時間考えた
末、C.Lの判断で断念 12:00 → 3:00 高松下.S

5月2日

8:00 T.S → 9:00 不帰山 釜A 尾根取り付き...この間の時間は不明 しか
し、途中アツェルトを飛ばす所、馬のりあナイフリッジ、Lに雪が降った
り、冷たい雨が吹いたりして、こわかった。 → 9:00 終了 → T.Sへ帰るつもり
であったが、小屋の明りもみえず、すびすび地吹雪で帰るのをやめ途中で
見つけた大きな雪洞でビバーク 10:00

5月3日

5:30 雪洞発 → 6:00 T.S へとまず寝ることにする。しかし12時頃になっ
てもししはあきてこないので2年雨靴が相談して寝ることにする。どつま
まどの日は現般。

5月4日

朝、みぞれに近い雪、強風。明日天候の回復するあてもないので、下
山することにする。6:30 T.S 発。3ピッチでハネ池山荘。その後すこし歩
いて、リフト、ケーブル、バス、汽車とウリウリで松本へ。

感想

天候にめぐまれず、王位しかかった。特に不帰の2ピッチ目はどうなるこ
とかと思つた。しかし不安な特に感じず。抜けてから、運があるけば家
さえありらるのにと思つた。途中はともなうことはおぼんじりを感じた。
と水に、ビバーク車の中での作業は非常にたつてしく、山への認識の深さ
をあらためて見た。

ワスイ記

北鎌尾根山行報告 6/3~6/6 Member 川口、三井

6月3日 高曇り

松本一大町、として笹平よりダンプの行きかう道路を濁きでトボトボ歩く、濁より発電所の地のおまるとあり高瀬の石岸を進む、裏銀座の縦走路が時折見える。濁よりニピッチ少々で湯俣につく湯俣はか、とりとした静かな温泉である。湯俣より水俣川の吊り橋を渡り、左岸を時々高まってきたから、ニピッチで少々で出合に着く、しばらくするとガスが降りて来て雨が降り出したので、おろく小屋にツェルトを張り泊まる。

6月4日 雨 沈殿

6月5日 快晴のち高曇り

4日出合より天上深を少し登るとワイヤーが張ってあり、これに4ロリアンブリッジを渡す。北鎌尾根の取付である。P₂までは鎖場を2ヶ所程含めた急登、P₂よりいくつかのピークを越え、P₆あたりから雪が出はじめ、右のりやらしイトラバースも終わり北鎌のコルに出る。ここからは雪も割合少なくなりスボスボの雪面を登り独標基部につく。独標の44ニを2ピッチで登る。独標に立って橋が年の届きとる所に見える。あとは橋まで、4丈深を巻きながらいくつかのピークを越える、しかしなかなか橋は近づかない、橋の基部からはなるべく雪のある所を登る、橋の頂から肩へ、とこでツェルトを張る。

6月6日 霧シオン

朝から月ほ強く、霧シオンである。ツェルトの中は水がたしとなり、なるとも惨めな状態になってしまった。天気図をみても悪くなりとうもなりので、惨めな状態から脱出すべく橋頭を不降、明神あたり迄くると踏新踏れ向地みえるようになった。任えがなりので上高地で車をつかまえるべく急いだ。

(川口記)

優雅で beautiful な山行を楽しむ会、お一人御台

6月4日～6月7日 L.加賀頼、高橋、菊池

6月4日

松本→上高地(昼めし)→岳沢ヒュッテ下の水場(T.S)

6月5日

B.C.→南稜トリッキ(アイゼン着用)→奥穂(ツイルト布う)
→吊尾根(雪の状態わるし)

事情により一ヶ所尾根より前穂沢に入り下降→B.C.

6月6日 雪現

ワエストーン祭を見にゆく、然、着いた時には終わっていた。

6月7日

B.C.→岳沢ヒュッテ(アイゼン着用)→ユブ尾根→天狗
沢下降(グリセード快朝)→B.C.→下山

中央マールプス急縦走 546.6.18.～6.22.

CL.川口、S.L.中田、鈴木 服部、西部、西川

6月18日

松本→伊那、渉外のミスで横山から登り事に変更→樫吹清水
→大樽小屋、小屋泊りと決定

6月19日 ①//②

5:10 出発→西駒山荘、稜線に出た時、眼前にひらけた、
御岳、ノリクラ、北ア響々の山々に Fresh. Mon 感激→濃分池
この付近にて雪上訓練→中岳(T.S)→木曾駒

6月20日 ②

4:50 出発→宝剣→横尾岳→空木岳→スリバチクボ(T.S)

6月21日 ③ 現殿

6月22日 ④/⑤

4:35 出発→南駒ヶ岳→越百山(下山路をほぼ無誤子)→七久
保→松本
(西川記)

白馬三山

MEMBER

L 白井, 板東, 伊藤, 志知, 杉本(部外者)

記録

6月18日 ○ → ◎

- 7:19 杉本発
- 9:30 白馬馬
- 11:05 猿倉荘発
- 12:40 白馬尻
- 13:50 ぬい
- 14:25 お花畑前
- 15:50 天鏡
- 16:30 白井はてしなく
- 17:00 お花畑まぐす前

6月19日 ○

- 4:30 起床
- 6:20 発
- 7:05
- 7:30 35 ジャックポ
- 8:20
- 8:30 白馬ピー
- 9:00 下り地
- 9:45 ぬい
- 10:35 杵子原の川
- 11:20 鐘ピー
- 11:55 鐘楽雪溪
- 13:05 鐘

6月20日 ◎ → ●

- 6:00 起床
- 9:20 発
- 10:10 小日向の川前
- 11:10 猿倉前
- 11:35 猿倉山荘
- 12:05
- 13:27 白馬発
- 16:00 部屋着 解散

感想

長期滞報が"はすれた晴れの山行で快かった。雷鳥や水屯焦と自分
 自分で見た。剣岳や黒部や白山も見た。雲竜を見た。温泉に入った。11月17日
 を食べた。尻セードやグリセードもした。すべてが新鮮に感じた。彼女に送
 り真もした。もっとも写真が一番大事だ"けれど.....

ほくはキスリングを背負って始めてキックステップを(ました。滑ってば)か
 いました。これは足が棒のようになるとも疲れました。下山のとき2回
 こころひました。一度は木の上で滑りました。もっと注意(させろ。マッチを11)や
 身につけてなくてアスとすぐ点火できなくてPartyのみろさんにかいやくを
 かけて申(今)ありません。また始めての個人山行を無事に下山できた
 ことを感謝します。
 (原文のまま) 志知 記

御岳

MEMBER

L. 中田, 三井, 白井

★ 記録

4月24日

20:48 松本発
22:20 木曽福島

きょうは 木曽福島の馬どまり 馬で
仮眠する。

4月25日

7:30 福島発
8:30 王滝口
9:00
10:10 清澄やせ
11:05 八海山下
13:35 田の原山荘
15:05 八合目下りT.S.

王滝口よりバス道路をたどっていく。田の原
存ので 車がとんとん我等を越していく。
小生らはバス道路を交叉して登山道へ歩いて
いく。とんるかに登っていき、すぐ土に自動
車道が出てくる。田の原についたときは竹藪
がさしていたので、八合目でやめて
しまった。

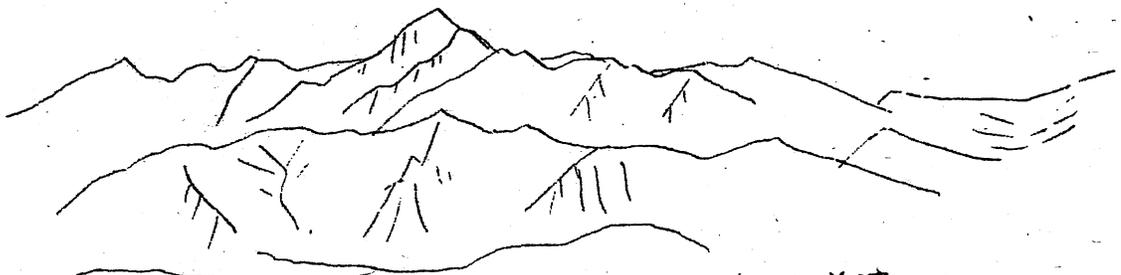
4月26日

5:25 発
7:00 剣ヶ峰
8:00 T.S.
9:00 田の原
11:30 御岳高原
12:55 王滝口
↓
松本

暗いうちに出発の用意をよとのえ 明
かるくなるのを待つ。

5:25に 出発し、7:00 剣ヶ峰に上る。
風が強く、長い日気も少ないので、まぐ
下る。アセツンがまきいてくれて、かなり
楽しい。9:00には田の原について。
あとはきょうと同じ道を下る。

中田記



剣ヶ峰の山

仙丈岳 甲斐駒ヶ岳 6/19~21

△金野 小泉 小林 田中

6月19日

金野の下宿 ~~バス~~ 戸台 スーパー林道を横目に河原を歩く。
歌宿沢 → ハ丁坂 → 北沢峠テニ場着

6月20日

3:00 G.D. → 仙丈3合目 → 小仙丈 → 仙丈岳頂上 → 馬の背ヒュ
ッテ → 北沢峠 → 双見山 → 駒津峠 → 駒ヶ岳 → 仙水峠 → B.C.着
どういっかわけ水朝早く出発し、仙丈へ。皆、快調に登る。
大境の頭あたりから展望がひらけ北ア、南アルプスの間岳、
北岳、塩見などみえすばらしかった。月はやめたかったが
あまり気にならな。下る途中がス加かかって来て少し思案
したが、そのまゝ北沢峠まで降りて下る。ここで雨が、駒
ヶ岳ツク巨決定、双見の手前あたりから小雨、皆少しバテて
来る。駒の最後の登りのガシ場で一傘バテる。頂で長い休み
あとはB.C.まで。

6月21日

7:45 出発 → ハ丁坂 → 戸台 → 伊那

(田中記)

谷川岳 - ノ倉沢島帽子岩南稜 6.16~17

△林正孝 大野幸雄 渡部(林、大野の二名は宇大)

6月16日

計画では14日入山の予定であったが、佐藤さんの葬式に出
席したため大野と後から入山。一ノ倉沢宇大のテントまで。

6月17日

B.C. → 中央稜テールリッジ → 南稜テラス → 登攀終了 → 一ノ
倉尾根 → 一ノ倉岳 → コル → 荒倉沢Eグリで下降 → 一ノ倉出合
→ 土合 → 宇都宮

岳沢定着

7.11~7.20

△ 榎東 渡部

7月17日

松本から上高地のサマ天に入り、思し、サマ天に別れを告げ、疲弊とトボへと岳沢へ向う。天狗沢畔に女張位張れる天場があったのでそこに設営する。

7月18日

快晴はらば、S.M.ニゼへ明神と行く予定であったが、ガスで時折雨が降ってくる。手近かなコブ尾根に行くことにする。教育大は天狗沢から奥穂のコースであったが再び引き返してきた。そこから小生のPartyは出発する。1峰午前のPeakに来た時にちガスがかかって天候よくなる。時折小雨。行く毎にもなす引き返す。帰途ゴミを取る。コブ沢には多くさんのゴミが繁茂している。

7月19日 ● 沈殿

朝から雨がザーザー。午後少し晴れる。明日は晴天だろう。6時頃から飲んで歌う。

7月20日 ①

4:30(起床) - 5:30(出発) - 6:05(ルンゼ取付) - 6:50(コル) - 8:15~8:30(1峰) - 9:20~40(コブ頭) - 10:00(天狗のコル) - 11:00(天場) - 3:10(S.T)

三日目にてやっと1本登れた。99%岩も平る気であったが天狗沢をグリセード降りたら登る気がなくなった。コブ1峰午前の1ピッチでSealを使用。ハツ山峰も登りがりがあった。

(記、板東)



My son!!
Yoshikasa.

★★

山前アルプス縦走

期間—7月20日(火)~7月22日(水)

Member—西部・服部

7/20 6:30(O.S.T)—明神館(7:00)—10:05~20(①4Cu=俣午前)—
12:15(①6Cu 稜線)—[大滝小屋ヒストン/13:10まで]—13:47(②8Cu 蝶嶺前)
—17:50(③常念Peak)—18:45(常念小屋テニ場)

どうも最終初からあまり調子のよい出たしではなかった。S.T.での
ポッカのつかれが残っているためか。蝶ヶ岳から常念岳への途中では
この辺でテントをほろつかうかと思った。また日も高いので結局小屋まで
行ってしまった。

徳沢から大滝への道も案外ほろつかしてわかりやすかったが途中
左岸から大きな沢が出てくるところがあるが、この沢伝いに道が上に
いておれ、まちがって登っていった人もいるので、気をつけた方がよい。
なお、小屋でWater 1ℓ 10Yenでわけてもらう。

7/21 7:10(④T.S.巻)—8:50(⑤東天井岳)—10:00(⑥大天荘)—
—大天井岳ヒストン 10:50巻—13:45(燕岳)—14:55(⑦テニ場)

疲れていたので出発が7:10になってしまった。その上午後になって
槍ヶ岳の肩の方にみぞれとレンズ雲が現われ、さらには立山から
三俣レンゲにかけてもレンズ雲が出現するありさま。そして太陽には
カサができたので、これは絶対に天気がくずれると思い、今日の行動は
東沢乗越までとする。案の定、北燕から下山するころにはガスも
出てきて雨が降ってくるのだった。ところが幸に東沢乗越まで行かす
に途中に雪渓がまだ残っていて、氷もながかっていたので、そこでテントを
ほろつかうと決定。なお燕から北燕にかけては多くはくまのガスが咲
いていて、たいへん見事であった。

7/22 10:10(⑧T.S.巻)—東沢乗越(10:20)—中房温泉(13:20)
—有明(⑨15:35)—松本(16:28)

玉のらから降りはじめた雨は今朝もちかす降りつづいていたので、東沢乗越から中房温泉に下山する事に決定。東沢乗越から

川原に求むまで、背下けしぬ草の中を歩き、しかもたぶん急であつたので
神経をこらさう。なお、最初の氷場は東越から、15分ぐらゐのくたつた
ところにあるが登りかえらう。さて川原に出てからは、大体沢をいかに
下っていくが、道が左岸をいかに行かうにすると、所々地図に廢道と
かいてあるだけで、崩壊してわからなくなつてゐる所があるが、高巻を死
ば、なんなく道を見つけられる。中からバスに乗って有明までいくので
あつたが、くやしかなこのころになつて、購ひてくるのだった。いつか、飯
鬼岳へもう一度登らうと思ふ。

以上。

〰 奥又白定着

期間 7.17 ~ 21

C.L. 三坂、S.L. 大安。加賀瀬 Es. 三井 (E8)

17日① 松本 - S.T. - 又白地

18日① 沈澱 1尾根の末端まで行く (三坂・ムジ・三井)

19日① 沈澱 茶ビンの頭まで行く (三坂・ムジ・三井)

20日①

△. 三坂・三井 - 北壁 A Face - 前木 - 北尾根下降 - B.C.

△. 大安・ムジ - 甲南ルート - 前木 - A 沢下降 - B.C.

21日① B.C. - 松高尾根 - S.T.

ガスに降参した山行であつた。

毎日倉庫のみの山行であつた。

おもしろくない山行であつた。

体力のない山行でした。

以上。

△ 白馬から稜記向へ 8/1~12

Member: (2) 高橋 部下 金野

8/1 ①/① 6:40 猿倉出発 - 12:00 育の小屋

バコ 白馬 Peak - 2:25 旭まきぎた エルゴ 3:30 肅汗の午前(7:30)

猿倉まで(おま)混んでなく順調に行った。11:30 歩きた(おま)とすべし人出て道をゆするところなんか考えられない。大雪渓に入ると人々でしりすうながつておま。金野が初めからすく飛ばした。しかし雪渓を抜けるやいなやガクと落ちた。

おまは小屋までバテバテでや、との思いで着いた。

清水へ向う道は全く静かである。バテでは11:10 気が持たずよく歩いて素晴らしいテニ場を見つけた。水もあつた万才!

8/2 ①/① 6:10 出発 - 7:30 不帰避難小屋 - 12:00 祖母沢出合 - 1:00 祖母谷迄

美しい静かな朝だった。清水平から道はさしに楽になった。道はお花畑の中を池糖をぬってのびている。遠くには日剣か迫力ある姿でそびえていた。不帰の小屋は、今まで見た小屋で最高のものである。無人だがガスの設備まである。苦しい下りが続いたので祖母谷迄に着いた。夕方川原の露天風呂に入った。

8/3 ①/① 5:15 出発 - 10:50 阿曾原 - 6:00 仙人池 - 7:10 池の平テニ場

ケヤキ平から急な道を登り、長い長い道を歩く。仙人池までの1200mの登りは苦しかった。池の平に着いたのはもう夕方暗くなっていた。

8/4 ①/① 6:45 出発 - 11:00 三ノ尾 - 2:30 池ノ平

鉦山おまの道とトラバースして小窓雪渓に降りて広い谷を小窓のエルゴで行き稜線にのって小窓尾根に上がった。

ここから見る剣尾根は迫力あつた。高橋の足の悪化、金野の

疲労、千ネの混雑、台風の接近など理由を千ネの千ネ、
とありきめた。またテホの予定もとりやめた。小窓尾根から
小窓雪渓へは最初登る予定だったルンゼをグリセードで下降
した。

8/5 ① 8:30 出巻 - 10:20 真砂 - 1:00 剣沢小屋
台風19号が接近しているがあまり影響はない。ただ朝焼
けが霧のせいが無意味であった。ゆくり出巻に果て天場着し
着いた。

8/6 ① 沢渡 風が強かったためだった。

8/7 ① 朝霧 50~100m 5:30 出巻 - 8:30 - 1 越 -
- 10:30 ザラ峠 - 5:40 間山
立山三山と順調に越し、ザラ峠、五色ヶ原を通りすぎて
11:20 間山にたどり着いたが、この水は実にたまりない。
夜になると水が止まってしまった。

8/8 ① 5:30 出巻 - 8:00 薬師P - 11:20 薬師沢右左股出巻
- 1:00 ケバツヶ平
薬師のPeakまでは順調だったが下りが実に苦しかった。
ケバツヶ平でもう歩けなくなったのでこゝまで。

8/9 ① ① 5:00 出巻 - 9:00 雪の平山荘 - 11:00 源流
1:40 双六の池
足の不順のため祖父沢から黒部東越のルートと祖父
岳の千ネ道にルートを変更する。雪の平は予想していたより
よくなかった。ハイ松が為すところから。

8/10 ① ① 6:00 出巻 - 9:45 檜の肩 - 中岳 12:30
北木のテニ場 3:45
中岳からは快調だったのに、千ネから北木の登りで
バテた。行けど小屋は見えなかった。壺谷はかすた。た。

8/11. ① 2尾根を1hour下降して北山稜に取り付いた。
下降しきりて2尾根のP₂に着いた。P₂でゆっくりする。
ドーム西壁P₂フランケを登っている人を見ながらメシにした。
あと水野クラックを登って終了した。
予備日数があったので今日は下山しないでくつろぐ
ことにした。南稜は気持ちのいい所だ。何しろ高い
テン場である3000mは越えている。

8/12. ガスヲたは ● 強風 6:30出発 - 8:30 白出のユル
- 12:00 岳沢 - 2:00 小梨平着
滝谷側はすごい風だった。ガスで体がビッシリに
なる。手がかじかんでホールドがつかめないうほど寒かった。
もう下山と考えると楽しくて関かんかたんともない。
重太郎新道で三坂村上のDフェイスPartyに出会った。
うれしくて足の痛みもわかるほどであった。岳沢から高地
の道路に降りた時12日間の行動の充実感、苦しみから
解放される喜びがしみじみとわいてきた。

《反省》

食糧・装備はうまく行った。下山する時には食糧はピンチ
フードだけであった。ガソリンは12日間2人で2.2Lで
ピッタリであった。問題は三ノ岳の作戦のことがあげられる。

山 S.T と B.C とする山行報告

① コブ尾根 8/9(月) 晴れ

△ 川口村上菊池・田中・西川・鈴木
4:00起床 - 5:10 登 - 7:25 コブ沢 - 8:55 コブI峰基部
- 12:30 縦走路 - 13:25 天狗のユル - 15:40 S.T着

② S'ルンセ 8/10(火) 快晴

△ 村上菊池・西川・田中・鈴木
7:15 S.T登 - 7:45 ルンセ入口 - 10:50 ヌル 昼食
13:00 登 - 15:25 車道 - 16:00 S.T着

③ 霞沢・六百 8/13 川口・伊藤

サマテン(7:00) - 途中オソルンセに入る(9:30) - 稜線(10:25)
- 六百沢下降(12:00) - 終了(3:45) - S.T(4:40)

帝国ホテルの前オソルンセヤブの中に入り、藪地を横に
みて、ハエ内沢に入る。ガラガラの沢を2Pich程登ると
ガスの切れ目向から稜線が見える。このオソルンセのオソルンセは
くすんでいて、左の小オソルンセに入る。アツクサイレンして2P
登る。六百までの稜線には地図にのってはいない小Peak
がいくつかあり苦労する。しかし、アツクサイレンしてはならない。
六百と徳本へ続く尾根の合する地裏から下降を始める。
草付をしばらく下ると、ルンセとなり水がある。水を入れて
凍らせたので、ここで昼めし、階段状のルンセをしばらく
下ると突然前が切れ落ちていく。20mアツクサイレン
続いて又境である。少し右に巻き左にトラバースして2本の
ハーゲンとピソに20mアツクサイレン、15m程アツク
サイレンしてスラブを下降、境をアツクサイレンしようとして下が
不可能なので、左の尾根にトラバースしてルンセに入り、
これを下降六百沢の核心部を抜ける。あとはサマテン
までホンカウホンカウ。

④ 置岩 中央ルンセ 8/14(土) 晴れ

ム村上、小泉、鈴木、草野

6:45 発 - 9:30 取付 - 10:35 ルンセ内のヒナツル土部
- 11:45 縦走路へ - 16:00 S.T着

ほとんどNo Sealで登ったけれど、想像していた程
の迫力はなかった。やはり積雪期の方が面白い
ところと思う。

記 鈴木

★★

山毛勝 → 白馬北方

Member: 大守、川口、三井、伊藤、鈴木

N.1.

7/25(日) ① → ②

3:00 起床 (思誠寮)

4:45 松本 station

9:06 魚津 station

11:00 東麓バス停

13:00 片貝山荘

7/26(月) ② 頭 既設

7/27(火) ① → ガス

4:50 起床

(阿部本谷から毛勝コルへ)

7:00 林道終点

7:30 滝と高差を、続いて右岸へ徒渉して踏跡を高差く。

8:05 雪溪の落口で100m引返し、左岸へひざ上の徒渉し、雪溪に出る。雪溪をつめ、三又辺りから傾斜が増した雪溪へと進む。

13:00 上部花畑に出る。

15:00 毛勝南北峰間コルの南峰側に設営、水は甲谷側に雪溪あり。

7/28(水) ② & ガス 既設

16:30頃 毛勝本山が姿を現わす。

7/29(木) ガス → 晴れ

4:00 起床

5:37 悉く甲谷側水場の雪溪より草付を破りながら下り、小滝より左側へトラバース(20m)して、ルビの雪溪に出る。

6:15~30 大守、三井 下部偵察

1:50 100m程の太岩の積み重み下りな滝状ルンゼ
ブロック吊り降すため時間を食う。

8:00 エルゴトの有る雪渓に出て慎重に下る。

8:23 三又出合の広い雪渓に出る。上部を見ると、我々の
下ったルンゼの左に上部まで雪渓が続いて
いる。ここを下山すれば良かった! 広い雪渓を
ステイレブで飛ばす。

9:10 甲谷ゴルゴの入口 (エルゴト帯 1km 前後)
天安川口 偵察
左岸を10m程登り、20m アップサイレンブロック
を全部吊降す。

下の雪渓を下りる為 30m Seil fix ののろ
ブロックを吊り降す。その際、川口伊藤、鈴木の
東った雪渓の端でブロック崩壊が起き、1年
避難。その後再びブロック崩壊。

13:00 エルゴト深く左岸草付に Seil fix 35m
500~1000m くらい前方に西谷出合を望める。
が下へは下らず、尚も、Seil fix 約100m
川口、三井は不休で fix 工作に当たる。
クレナ、編Seil 等3本の Seil を全て使用。

14:15 通過開始

15:05 " 終了 広い雪渓に出る。エルゴト内でビバーク
決定、下りを探す無く。雪渓上部にピッケルで
テラスを作る。下部に水があるが、ブロック崩壊の
危険がある為、焚火で水を作る。4ヶ所!!
水不足で炊き込みは、芯があり、食当のMoは
非常に肩身が狭い。

19:00 明日からの先行が不安だか、ネル!!

モリス 毛勝 → 白井 (1) No. 2.

7/30. (金) ①.

4:10 起床 野菜 ソーメン 等 デホ

5:45 登 谷の下流のゴルジュが見通し無いため、高差く
ルゼを登り、ブッシュを泳ぐ。きいもんぬ!!

9:15 尾根上に出る。谷より2~300m程上部
西谷出合と下部に望める。

尚も、小枝をまたぎくぐり、泳ぐように下り。

途中、大岩下で熊の骨と毛を登見! 見たのた!

11:10 出合 50m程の上部の急斜面。

川口 三井 偵察

12:40 30mのfixを下って出合。谷の水全部飲み
たいくす!!

休憩して、地下足袋にかえる。

13:30 右岸へSeil確保して徒渉。その上部はバツグン
のテン場有。岩穴も有。?年10月の週間誌登見
し、人が恋しくなる。

14:00 川口 三井 下流の右岸 偵察 地設管

14:50 " " の左岸 偵察

15:40 川口 三井 帰テン。

下流偵察の結果、ゴルジュの水多く、右岸と高差く
以外、小黒部出合に出る方法無し。

西谷 → 東又谷 エスケープに決定

17:00 井筒一人の差入が、ススキーのエンパ。焚火ボンボン!
しかし、全く喉を通らず。マズイ!!

川口一人、上流に釣りへ出、かけしが餌もとら

れるにもたて来ず。川の流れでは、小黒部本谷の
大ゴルジュと滝の音を聞き、流す水は、川口一人の

2:00

お茶を飲む。よく休む。

7/31 (土) 晴れ

4:30 起床 エッ! テホ! 来たない。

6:00 登。西谷をワラビで快調に登る。出合から
150~200m エルビニ状。

15mの滝を右岸高巻を。後は、美楽に沢
登り。

7:35. 今に下落ちそうなアルプス的スノウブリックの
下を1人ずつ通過。肝を冷やす。

8:40 東又谷への最低エルに入る。小沢出合。

左に毛勝本山峰への沢が雪渓をつけて直登
している。めっちゃゴワイ草付をローザイルで、慎重に
進む。

9:45 草付を出て、水気のないうルンゼ内で休憩

右上方に、千ボコ岩が印象的!
防空用の塹壕みたいな甲を急登する。

11:55 鞍部に出て、南へ5分ばかりヤブを踏ミ、小はな
流れを下る。コケがっついて、すべるすべる!

13:30 東又谷をほんへ下り。左岸に白り大ガレの
めい地奥の右岸に設営。

14:00 カレー中華を食べ、食料を整理。

16:30 自由となり、濡れ物を干し、焚火をする。

18:00 本日の炊き込みは、水も十分有り、2食分を
使ったので、めちゃうまい!

Meは1人4回寝までやる。最初の3日間が
うそのように胃が快調になる。

21:00 11つ子でも焚火を見て11たかたが、エムラアに
くる。明日は松本! 楽しいな。

毛勝 Party No. 3.

8/1 (日)

5:00 起床

6:50 啓

7:25 エルビュ帯入口。三階柵境は左岸30mの高
巻王。滑り易く要注意。

8:40 エルビュ出口

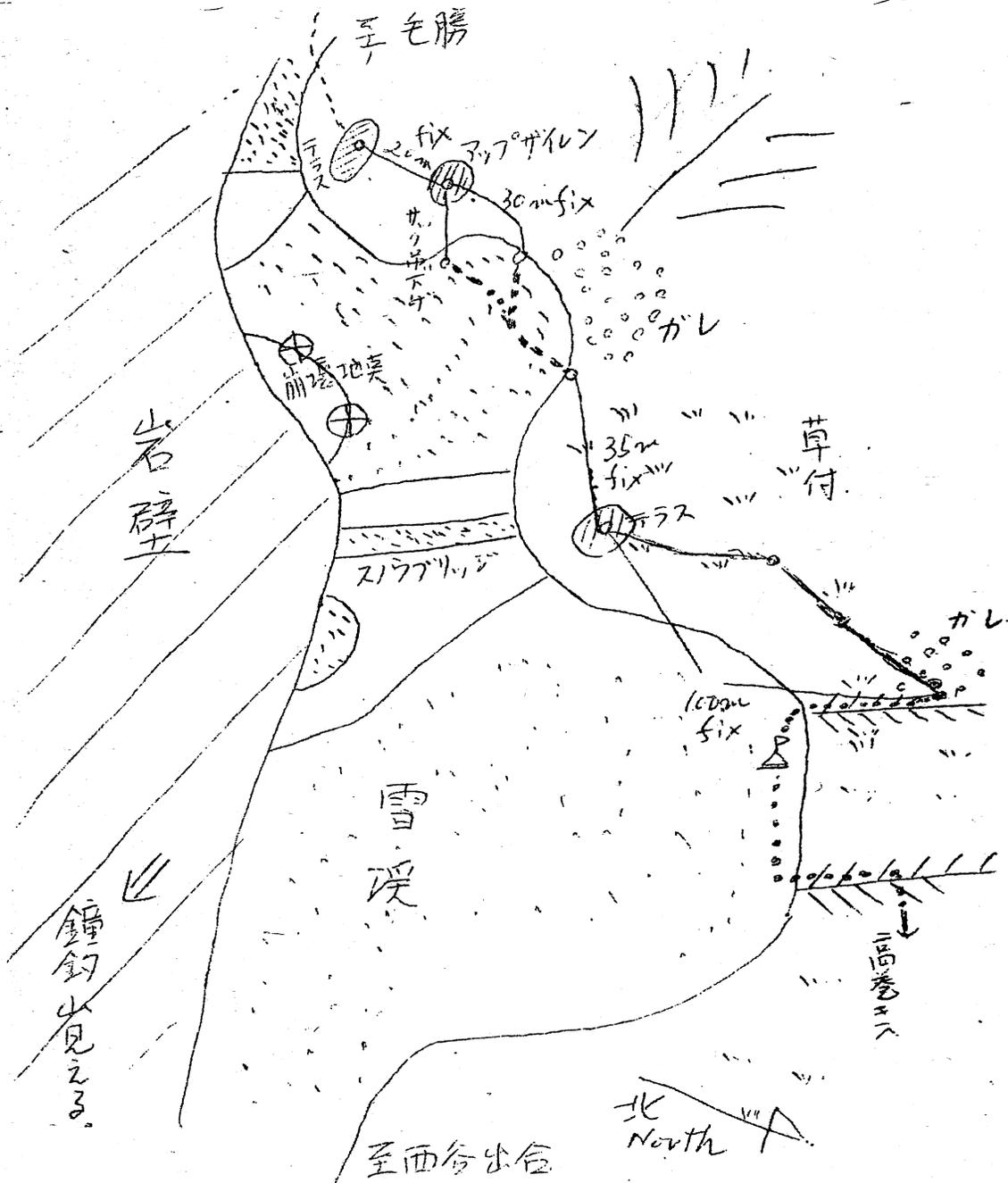
ここから沢下りを楽しむ。今山行では一番
面白いと思った。楽しいなあ!

9:20 大えん堤を石岸から越して、林道終末ゆくり
休んだ後、エックラ〜と林道を歩く。

11:25 入山の際、世話になったトラックに、またまた乗車。
思い出の毛勝を後にトラックの荷台で涼しい風を
受ける。親切な運転で、ずいぶん先のバス停
まで運んでくれたので、お礼に残っていたウイスキー
をあげる。

記 鈴木

中谷 エルゴ帯 核心部 ルート図 (鐘釣)



8月11日

眠りについたらのはききらに落ちてからた"というのに、お人声で目を覚ましてしまった。二時すぎた。睡眠不足と、ゆづで飲んだせいで"うが、食欲もく、トウモロコシを一本かじり、予定より早く三時ごろ、サマーテントをあとにする。

昼間あんなににぎやかな明神へのハイウェイも全く人気がない。それに暗い。樹間からまれ月あかりにほんやり浮かんで見え"のが、何か生き物のような気がしてギクッとしたりする。とてまたひとりじゃ歩ける。時より黒い影が前を横切。野うさぎた"らう。

明神で地面に寝そべってうつつうつつし、徳保までく"ころには、もうかなり明かしく、テントをたたんで出発しようとしてい"人達も見かけぬ。天気はますます。水を飲んで出発。

何とか橋、というの、昔の新村橋よりいくぶん下流に"つたれたのた"うが、それと中又白谷の押し出しが、少し共々移ったのた"うが。とむく橋をわたってすぐ目の前の濁れた尻をつめる。靴跡が石の上に残っているが、おらぬおた"は石。石ころの川原をたどって"い"て、中又白谷下部を正面にむかぬとこ"ろに出る。このあたりには少し水流がある。F₁下には残雪あり。F₁というのはさ"すがに一枚岩でま"くよりほめるい"おた。左岸のやぶをま"くこ"にす。とりつきは、"はるへび"いるご"の"とてお"い"い"実が一面に"ら"ていて思"わす"つ"まんでみる。踏みおと"して、石手へ登るとま"たぬく消"えてしま"い。ほん"と"うはも"と手前"で上"へ登りはじめた"お"がよ"かたの"か"もし"れないと思"い"るが、と"にか"く環"状"打"開"の"ため"上"へ上"へ……。花崗岩質の岩の風"化"したとこ"ろを"微"妙に、あ"い"いはやぶに"つ"かま"て強"引"にの"ぼ"るが、"と"の"う"ち、F₁の"落"ち"より高"く登"つ"て、ま"い"やうに"な"り、ア"ン"ザ"イル"して左"手"へ"ト"ラ"バ"ース"を"は"じめ"る。これ"ま"た"妙"なとこ"ろ"でや"ぶ"こ"いて、よ"う"やくF₁の上"に"出た"とき"には"もう"す"て"に"一"時"間"以"上"経"過"し"て"いた。先"が"思"い"や"ら"れる。し"か"し、谷の中"は"意"外"と"す"せ"り"し"て"いて、よ"く"み"が"か"れた"岩"の"感"触"が"気"持"た"い。F₃の"手"前"で"早"く"も"軽"い"食"事"を"と"る。F₃は"J"が"予"想"し"た"よ"う"に、"チ"ョ"ク"ス"ト"ーン"に"ボ"ルト"が"一"本"打"ち"ひ"ま"れ"て"い"る。空"身"から左"岸"よ"り"か"ら"フ"リ"ー"で"越"せ"よ"う"と"が"、先"を"急"いで"い"た"の"で"、守"易"に"は"し"てア"ブ"ミ"を"と"り"出"す。あ"と"に"な"る"て"思"え"ば"こ"れ"が"全"ル"ー"ト"中"唯"一"の"人"工"と"な"る"お"け"で"悔"や"ま"れ"ぬ。

F₄は、い"ち"ん"右"岸"の"バ"ン"ク"に"出"て"か"ら"と"り"つ"き"左"岸"よ"り"の"チ"ョ"ク"ス"ト"ーン(C.S.)の"間"を"ホ"ジ"ン"と"な"り"利"用"し"て"×"×"×"×"登"り"も、最"後"の"出"口"で"足"あ"が"り"き"つ"す。失"れ"て"ひ"ざ"る"と"使"う"い"と"見"苦"し。

このあ"と"谷"は"や"や"開"け、左"岸"か"ら"岩"く"さ"を"は"き"出"す"ガ"リ"ー"が"落"ち"こ"ま"て"い"い"とこ"ろ"へ"出"る。本"流"は"と"い"う"と"こ"こ"ら"少"し"左"へ"折"れ"て、い"く"つ"か"の"大"き"な

段(たぶん滝下)を構成している。直登は無理のようだ。右岸にいくつかの
バンドからなる広いスペース(?)がありそこから上へ抜けようと言ひ。岩は風化
してザラザラこわれやすいのでスタカットで25センチほど登る。ここにはかなり
大きな滝つぼがある。ほか下方梓川対岸から下30の声。何限かボツカは
三井の声とみた。ここには博にエカがこちらからのコールは流れの音に消されて
聞えないだろう。それにしては静かだ。聞こえぬのははるかに梓のさざめき
だけ——(いやいやさきほどがイロヤストーンボのする文明の利器が頭上
を行きか? いやではあるか。小屋への荷上げは「か」うはいもんで「て」)
この滝つぼまで登って、はたして自分達は今どこにいたのかということ
頭をひねるのである(というもF5以後があまりある)。どうもこの滝
つぼはF8のもので、行く手を遮り、とつくとこもなだらかな滝がF8
らしいという結論に達した。なほほど。やういえば左岸に洞穴がある。
それにしては、ここまでは何とあつてきたことだろう。食事をとって、
K. トップで左岸の傾斜のゆるいところから左上へ登り、テラスに出て、残置
バーゲンを見つけた。ここは区切り。Jが、つるべで矢へ進む。下から見るとさ
なところも、実際には悪いらしく数m先からさるか伸びる。岩もむく
どのホールも頼りなげだ。おかげで、落ちる手で「壁」はぬけて、たの
Jが、奇妙なさけい声とともにようやくテラスへ抜け、ホールに「レイ」と、続
いてK. つるべでのほり続けた。テラスから左上のC.S.の下に出るべく、まず
トラバースはじめ、ホール網が、心に迷いを全して行きつまた。かなり
迷ったあげく、ようやく思いきりよくC.S.の下、濡れた岩のところに下り、
C.S.のすぐ右へ出ようとしたが、すべりやうで、少し下から右にまわりこんで
落ち口のすぐ下のテラスへ、更にF8の上の広場へ抜けた。Jも抜けた
あと大休止。滝つぼに透明ないかにもうまそうな水ありか。
ここは中々飲まわけて「や」いかぬ——と思いつつ一口。
F8はさすがに手ごたえはあるが、迷わなければ「もっと早く抜けられたら」。
この先ザイルを解いて進む。しばらく小さな滝林のところをいくと谷は石へ
折れ、もう午後、日がかげって暗い。廊下林のところを抜けるとゆるやかな
明かしく開ける。そして谷はゆるい傾斜のふあまるスラブ帯となり、
確かに快適に歩けるはずなのだが、疲れてはものごとくはかた
しんどい。上の方でさらに谷が開けて「ク」かん「が」目が「つ」よう「る」
とまもなく小さな水流を見ゆ。もうひとつのこと、唯一の希望でた
疲れたからには、さうして歩く。その水流をたどると、石層の真裏の
ある水場に出た。しかし、ここからテラスまでというのが、こわい(さ)の
ことはよく知っている。セーセーという又白池畔のテラスに「ス」
前穂が、手後のせ光は黒いシルエットをみせて、すく「は」水
くんで「きて」飲んで「飲んで」2杯は飲んで。

8月12日

目を覚ますとツェルトの内側がひらひら。外をみかうと一面がスチ。茶の頭もおぼろ。幸い雨は降っているものの予想外。CIRを登っていく。天候のせいか、時間のわりには暗い。ガスがあたりが何も見えないことがいささか感じさせる。

CIRから三峰リッジの末端を左へ折れ込みBIR上部へはいは、小雨が降ってきて岩がぬれた。北壁へのエスケープも考えよ。しかしながらこのあたりから始まることになった。いくら登ってもあの見られるDfaceが見えない。あたりは濃いガスで視界が10mほどしかあるといえ、又々々Dfaceが目の前にデーンと居た。登ってきた左側には右岩稜らしいシルエットが確かに見えつた。しかし、あたり見えない範囲はあんなに大きい。落石の音と木のきくさいにまいたえんがたが、見慣れない所だ。右の側にポーンと岩稜らしきものが見え、それをさしていき奥に進む。それに更に登っていくと、ちやんとザイルがほしいようるところへ出てきた。では右側か。一応ひき返さる。BIRの氷場→確かにこの付近からはいはすた。右岩稜の下でおぼろとこのFバット伝い、ちやんと左へ行ってみよ。反対側もまた登って、ひき返してみよ。そんなことを何度かくりかえして、いささか二時間ほどを費やしてしました。北壁に逃げようにも、またさくたか、はすがる。とにかくBIRを攻めれば、Dfaceも北壁にそとつた。このなかから、とくと残された道は右の方の雪渓しかある。これは、実はこれを見覚えの石のた。しかし、ほかに行くべき道は右のた。とにかく残された可能性を頼り、この雪渓を登ってみよ。ところが、ここも、もう岩壁に突きあたってまた登るくらゐ登っている。いささか雪渓はつきる。悪い予感。どれほど登った。行く手が心打ち明かす。見えた。「あれ何に見えた？」K. said. ---「ゴルで(よう) J. said. ---沈黙---。とちかく行ってみよでは右側か。そのゴルとやらへ。それはJ.にとってどれほどショックだったことが、心中察するに余りある。それは確かに見覚えのあのゴルだ。喜劇は終わった。無気力に腰を下ろす。雨が本格的に降ってきた。

後記: 後の観察によると、確かにDfaceの存在は明らかになった。失敗の状況は、BIR上部を谷芯よりいくぶん三峰リッジ寄りルートにいて、たまたま折れからの標高がスチ北壁とつながるのバットを見落とすたかと思われ。油断をたとさるよという、あつとみおぼろ、例でみるさま、一筆に付すこと。謙。虚る気持で、山にたたくはありせんか。

北アール707 縦走 7.25 ~ 8.3

Member. C.L. 中田, S.L. 白井, 板東, 間瀬, 小林, 北岡,
棚橋, 志知, 西部, 坂部, 瘦部.

7/25. 4:50 (① 恩誠寮登) - 7:00 (白馬駅) - 8:42 (ガスうき平)
- 11:02 (八方山) - 1:45 (唐松小屋) - 1:58 (① テン場)

7/26. 雨のため現撮.

7/27. 3:40 (① 起床) - 5:45 (テン場登) - 8:45 (② 五竜岳) -
- 12:10 (ガス・天カレット) - 14:30 (① 鹿島槍山頂) - 15:50 (テ場)

7/28. 6:10 (① テン場登) - 9:40 (探偵越凍越) - 11:35 (鳴沢岳) -
- 12:40 (赤沢岳①) - 3:40 (針ノ木岳) - 4:50 (T.S)

7/29. 7:23 (T.S登) - 9:57 (① 南沢出合) - 11:12 (① 平の瘦船場)
- 2:15 (T.S. 南沢出合 ○)

7/30. 5:40 (T.S登) - 11:10 (① 赤牛山頂) - 4:05 (高天原 テン場)

7/31. 晴況 (瘦部上高地へ下山)

8/1. 5:30 (① T.S登) - 8:45 (① 三俣蓮華小屋) - 10:15 (三俣ヒゲ山頂)
- 1:20 (① 双六のテン場)

8/2. 5:07 (T.S登○) - 9:47 (① 笠ヶ岳山頂) - 3:40 (① 槍見)
- 4:27 (① 中尾キャンプ場 出)

8/3. 9:50 (① T.S登) - 12:30 (中尾峠) - 15:30 (S.T着)

以上.

この記録係はたかか?

あと記録らしくしろ!! 感想も入れろ!!

どのような状態であつたのか書け!!

味がない!!

(記録係おろ)

⑤ 六百沢から三本槍沢 8/14 三井・雄治

S.T 巻6:30 - 大滝の下(8:00) - 六百山Peak 12:00
- 三本槍 1:00 - S.T 4:30

広い道路からデルタ状の六百沢に入る。右岸に1つの小さな沢
を見つけて比較的大きな石の沢に入る。すぐ3mの滝
がありまうとあるが失敗して直登に成功する。少し登ると
前より大きい大きな壁が出てく。100mほどありそう。
直登は自信がないので左の凹状のボロボロの壁から
ルンゼ状スラブを登る。ザイル3ピッチ 90mを要した。
傾斜はないがホールド・スタンスが不安定で117も緊張
させられた。左のブッシュに入り滝の上に出る。ここからは
ナメ滝。ナメ床が続く楽しい。すぐ草付になりそのあと
ヤブユギで六百の山頂に飛び出た。ハイ松の稜線と
行き、三本槍とすまた沢から降りる。すぐ滝があり石手
トラバースして三本槍沢の本流に入る。この降り口は
石がすべて滑って微妙なバランスが必要。急な滝の
連続する沢を直降。高まりをくり返しながらどんどん降る。
ハエ内沢から帝国ホテルの前に出て、S.Tに帰る。

以上

新刊

第 13